

観察した鳥類チェックリスト

- | | | | |
|-------------|------------|-----------|-----------|
| ★キジ目 | ★ツル目 | ★ハヤブサ目 | □ ツグミ |
| ・キジ科 | □ クイナ | ・ハヤブサ科 | □ ジョウビタキ |
| □ キジ | □ バン | □ チョウゲンボウ | ・スズメ科 |
| ★カモ目 | □ オオバン | □ ハヤブサ | □ スズメ |
| ・カモ科 | ★チドリ目 | ★スズメ目 | ・セキレイ科 |
| □ コブハクチョウ | ・チドリ科 | ・モズ科 | □ キセキレイ |
| □ オカヨシガモ | □ タゲリ | □ モズ | □ ハクセキレイ |
| □ ヨシガモ | □ ムナグロ | ・カラス科 | □ セグロセキレイ |
| □ ヒドリガモ | □ コチドリ | □ カケス | □ タヒバリ |
| □ マガモ | ・セイタカシギ科 | □ オナガ | ・アトリ科 |
| □ カルガモ | □ セイタカシギ | □ ハシボソガラス | □ カワラヒワ |
| □ ハシビロガモ | ・シギ科 | □ ハシブトガラス | □ アトリ |
| □ オナガガモ | □ タシギ | ・シジュウカラ科 | □ ウソ |
| □ コガモ | □ イソシギ | □ ヤマガラ | □ シメ |
| □ ホシハジロ | ・タマシギ科 | □ シジュウカラ | □ コイカル |
| □ キンクロハジロ | □ タマシギ | ・ヒバリ科 | ・ホオジロ科 |
| □ ミコアイサ | ・カモメ科 | □ ヒバリ | □ ホオジロ |
| ★カイツブリ目 | □ ユリカモメ | ツバメ科 | □ カシラダカ |
| ・カイツブリ科 | □ セグロカモメ | □ ツバメ | □ アオジ |
| □ カイツブリ | □ オオセグロカモメ | ・ヒヨドリ科 | □ オオジュリン |
| □ カンムリカイツブリ | ★タカ目 | □ ヒヨドリ | □ |
| □ ミミカイツブリ | ・ミサゴ科 | ・ウグイス科 | □ |
| □ ハジロカイツブリ | □ ミサゴ | □ ウグイス | □ |
| ★ハト目 | ・タカ科 | ・エナガ科 | □ |
| ・ハト科 | □ トビ | □ エナガ | □ |
| □ キジバト | □ チュウヒ | ・メジロ科 | □ |
| ★カイツブリ目 | □ ツミ | □ メジロ | (外来種や家禽) |
| □ カワウ | □ ハイタカ | ・ヨシキリ科 | □ バリケン |
| ★ペリカン目 | □ オオタカ | □ オオヨシキリ | □ ガチョウ |
| ・サギ科 | □ ノスリ | ・セッカ科 | □ アヒル |
| □ ヨシゴイ | ★ブッポウソウ目 | □ セッカ | □ ドバト |
| □ ゴイサギ | ・カワセミ科 | ・ムクドリ科 | |
| □ アマサギ | □ カワセミ | □ ムクドリ | |
| □ アオサギ | ★キツツキ目 | ・ヒタキ科 | |
| □ ダイサギ | ・キツツキ科 | □ シロハラ | |
| □ チュウサギ | □ コゲラ | □ アカハラ | |
| □ コサギ | | | |

【10月のテーマ】 空を見上げてみよう

案内人：弘實さと子・小泉伸夫（鳥の博物館市民スタッフ）



▲秋に日本からフィリピンなどに渡る、タカの仲間のサシバ。運が良ければタカの仲間を見つけられるかもしれません。

気温が下がって餌が少なくなる秋は、様々な生き物たちが南に移動する季節です。てがたんコースでも、空を見上げると、鳥や虫の移動を観察することができます。今日は、いつもより多めに空を見上げて、移動する生きものたちの動きや、雲の形の観察を試みましょう。

2023年10月14日（土）

鳥の渡り

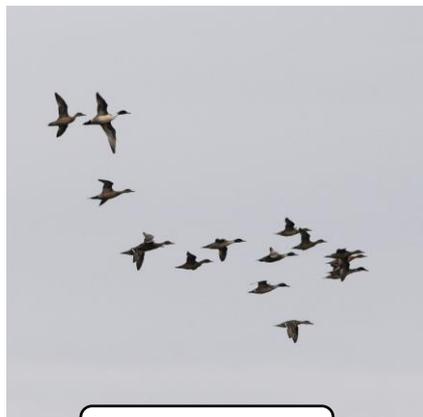
秋になると、緯度の高い地域で繁殖していた鳥たちが、越冬の為に暖かい南の地方に移動します。多くの鳥は繁殖地と越冬地を往復する「**渡り**」を行います。10月の見どころを2つご紹介します。



ヒヨドリ

昼間に渡りをするヒヨドリ

他の多くの小鳥と違って日中に渡りを行うので、最も渡りが観察しやすい鳥の一つです。てがたんコースではあまり大きな群れは見られませんが、晴れた日の午前中に、手賀沼を越えて南へ飛んでいくのがよく見られます。



オナガガモ

渡ってきたばかりのカモ類

手賀沼では、カルガモ以外のすべてのカモ類は冬鳥で、9月から11月にかけて渡ってきます。この時期には、到着したばかりのカモ類の群れが落ち着かず、沼の上空を飛び回っていることがあり、時には数百羽の群れを見ることができます。

虫の渡りと分散

昆虫も、鳥ほど多くはありませんが、移動を行うものがあります。鳥と異なり、一世代の時間が短い昆虫では片道の移動=**分散**になるものも多くいます。ここでは、タイプの違う2種のトンボの渡りと分散についてご紹介します。



アキアカネ

渡りを行うアキアカネ

6月ごろに平地の水田で羽化すると、すぐに高い山に移動して夏を過ごします。秋になると平地に戻ってきて田んぼに産卵します。このような渡りを行うトンボはあまり知られていません。



ウスバキトンボ

北に向かって分散する ウスバキトンボ

世界中の熱帯～亜熱帯の地域で発生しますが、夏になると分布を広げ、日本でも全国的にみられるようになります。しかし、ほとんどの地域では卵や幼虫が越冬することができず、死滅してしまいます。